

(第 123 回) 神奈川研究会議事メモ

開催日	2021 年 11 月 9 日 (火)	出席者 敬称略	西村二郎・松村眞・持田憲秋・猪股勲・ 宮本公明・飯塚弘・神田稔久
時間	13:00~16:30		
場所			
資料			

- 議題
1. 見学先の概要
- ① 高輪築堤
1972 年 日本初の鉄道が新橋ー横浜間で開通した際に海上に線路を敷くために造られたもの。国史跡に指定
 - ② 高輪大木戸跡
江戸時代のゲートウェイ。東海道の最初の宿場「品川宿」の手前に 1710 年に設けられた。国史跡
 - ③ 願生寺
寺は俗に牛町（車町）の中にある 1602 年創建の古刹。東海道で使役された牛の供養のための牛供養塔がある。
 - ④ 車町稲荷神社
社務所の屋上に鎮座する車町の稲荷
 - ⑤ 高輪海岸石垣石
近くで出土した江戸時代の海岸の石垣を復元
 - ⑥ 高輪消防署二本榎出張所
1933 年に完成した消防署。アールデコ調の作りとなっている。都の保存建築物。建築当時は、その外観から「海原を行く軍艦」と形容された。現在も現役として使用されている。
 - ⑦ 物流博物館
物流に特化した博物館。前身は、1958 年に日本通運本社内に設置された通運資料室。入り口には、東海道の天津ー京都間（京津街道）における牛車専用道路「車道」に敷かれた車石（舗装道路、鉄路のはしり？）が展示されている。



参加者からのコメント

・ 物流博物館という施設があることも知らなかったもので、今回の見学はどんなものだろうと、疑いつつ、久々のリアル開催の研究会なので期待もしつつ参加しました。辿り着くまでは、かなりの雨でしたが、意外なことに立派な施設で、説明員の方の質問に対する分かりやすい説明、豊富なビデオライブラリー、Zゲージの貨物列車が行き交い自動車やクレーンが自動で動くジオラマ（鉄ちゃんなので、自宅にNゲージのジオラマを持っています）など好奇心を十分に満たしてくれました。神田さんありがとうございました。

もとは日本通運の資料室のものを展示したとのことでしたが、小さいころ何度も経験した引越しやアメリカ留学の行き帰りでお世話になった日通が江戸時代の飛脚にルーツを持っていて、戦後しばらくは、牛馬での輸送もやっていたとは驚きでした。温故知新とは過去の歴史を紐解くことから始まるということを実感しました。



(宮本)

- * 品川周辺の“史跡”について認識を新たにした。建造物に関しては、ビルの隙間に埋没している。史跡が優勢な京都との保存法の違いが浮き彫りになっている（⇒どうあるべきか考えたが名案が浮かばない！）。
- * 物流博物館（ニッチな分野の博物館だが面白かった）：①超重量物の運搬方法、②過去の運搬方法（車輪の轍の“レール”化道路）、③おばさんが100kgの材木を頭の上に載せて短距離を運んでいた（現在の労基法では女性は20kg）、④技術革新の速さを改めて認識（展示を見て馬車による輸送が小生が小学生時代は一般的であったことを思い出した）、⑤この博物館のテーマは「移送」なので、やむを得ないことだが、アマゾンに代表される「消費者向け物流の合理化」には眼を見張らされている。
- * 雨の中の見学（寒くはなかった）、思い出に残るだろう！（西村）

東海道に沿った交通の要所の品川には、江戸時代の史跡があることは知っていたが、今回の品川大木戸跡や高輪築堤などの興味深い史跡が、人目も引かずに道端にある事が面白かった。あいにく、激しい大雨の中での見学だったため、余裕のない訪問だったが、もう一度、天気の良い時にゆっくり散歩がてら、歩いてみたいと思った。物流博物館も、初めての訪問だったが、運輸関係というなじみの薄い分野での目新しい情報がいろいろあって、興味深かった。日本通運のプライベートな博物館が起源で、運輸業界団体が運営しているとの事だが、公共の博物館として、発信力を強められれば、子供たちなどを含め、もっと、注目され、見に来る人も多くなる可能性のある博物館になりそうだと思います。(猪股)

■「高輪築堤」明治5年に我が国初の鉄道が新橋～横浜間に開通した際、海の中に築かれた鉄道遺構です。明治5年と言うと、今放映中の大河ドラマの洪沢栄一が、大蔵少輔事務取扱になり、翌年大蔵省を辞め、第一国立銀行開業し、抄紙会社(後の王子製紙会社)を創立している。テレビで見ていると混沌とした時代で、できたばかりの明治政府が生みの苦しみを味わっている所です。そんな時代に一部線路が海上にある鉄道建設など、資金面、技術面、土木作業なども難事業だったことが想像されます。幕末に海上にお台場を作った経験、築城技術が多少なりとも役に立ったかとも思います。旧東海道を行き交う人々、人力車、馬車などから、数百メートルの向うに海の上をおもちゃのような蒸気機関車が走り、その間の狭い海上と外海との間を行き交う小舟など、その光景は絵になりそうです。

■「高輪大木戸跡」江戸の玄関口である今の高輪大木戸跡から江戸時代の大木戸を想像するのは難しいです。大木戸の入り口・出口付近には旅人が休憩する茶屋や宿屋があり賑わっていたのかも知れませんが、近くに赤穂浪士の墓所の泉岳寺があり、高輪大木戸との関係性をふと思いましたが、想像できませんでした。

■「高輪消防署二本松出張所」雨の中、海岸通りからの上り坂をいつまで続くかと思ひながら歩いた先にありました。高台にあるので、昔なら高い建物がなく、東京湾を見渡せたものと思います。レトロな洋風の威厳のある建物で、3階が円形で、その上に望楼があります。残念ながら中には入れませんでした。こんな消防署が各地にあれば絵になると思いました。交差点の向かいには、同じ位の大きさの高輪警察署の現代的建物が対照的でした。

■「物流博物館」①重量 355 トンの変圧器を輸送する映画は見応えがありました。わずか 8km の距離を深夜に輸送すると言えばその大変さが察しられます。しかも輸送そのものより準備段階がもっと大変で、荷重に耐えられそうもない橋は補強するなどの準備です。巨大構造物の陸上輸送の大変さを知りました。②ジオラマは陸海空の物流ターミナルを縮小したもので、真っ先にその製作の大変さを感じました。ヤマト運輸の物流センターの仕分けターミナルでは、物流支援ロボットが、ロールボックスパレットの自動搬送に導入されているとのこと。人の動く動線を短くし、代わりにロボットがパレットを搬送し、人での作業負荷を大幅に減らせるようです。③江戸時代の飛脚業が日通の先駆けであることを初めて知りました。明治になり国営の郵便事業がスタート、全国にポストができ、日通は輸送業に専念していたのかも知れませんが、今は、官が民を圧迫する時代から全て民営化される時代になりました。(飯塚)

高縄ゲートウェイ駅という最新の世界を出発点とした江戸から明治にかけての様々な施設の見学は、とても懐かしさを感じさせるものでした。降りしきる雨中の行進でしたが、坂道一つとっても江戸の面影を感じさせてくれました。

このような見学会は、なかなか企画できないものです。今回は、神奈川研究会が、江戸研究会になった日でした。

江戸っ子の神田さんの知識と教養に裏付けられた見学会を楽しめました。(持田)

日本で、物流という言葉が使われ始めたのは、昭和36年（1961年）頃という説明を聞き、日本の長年の弱点を改めて考えさせられました。

ローマ帝国は、ローマへの道を整備し、それを石で舗装し、物流の円滑な流れと軍団の迅速な派兵に利用しました。

日本では、やっと江戸時代になり五街道が整備されましたが、大量の物流を流通する発想はなく、車石が敷かれて舗装されたのは、近畿地方の三つの街道だけだったそうです。

近代になっても、戦争時の兵站の考えが無く、太平洋戦争では、戦闘死よりも餓死が多かったという悲しい戦史が残っています。

その考え方は、現代においても変わらず、会社では、物流部門への人材投与はいつも後回しだったように感じています。（神田）

	<p>2. 幹事会報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 化学工学会から – 秋季大会は参加者 1800 名と盛会であったが、オンラインに対応するためにコストが上昇した。 ・ 11/13 の技術懇談会の前の時間を使って、新規入会者のオリエンテーションを行う。 (ちなみに、今年度入会者は 6 名で多数は定年退職後すぐに入会されたと見受けられる) ・ 来年度予算を今年度の着地見込みをもとに策定した。剰余金が出続けることや学会の資金需要の点を考慮して、従来の本部還付金 75 万円を 25 万円に減額し、一部オンラインによる交通費減、盛況なオンライン講習会の参加費増、IT 化費の増加を折り込んで総額 180 万円として提出することにした。 <p>3. 今後の予定</p> <p>12 月 小林氏 1 月 山崎氏 2 月 猪股氏 3 月 飯塚氏 4 月 西村氏 5 月 見学会 6 月 宮本氏 7 月 大谷氏 8 月 松村氏 9 月 神田氏 10 月 見学会 11 月 持田氏</p>
	<p>1. 日時 令和 3 年 12 月 14 日 (火) 15 時～17 時 2. 場所 かながわ県民センター会議室 3. 技術課題 小林氏から提供</p>
	<p>1. 日時 令和 4 年 1 月 11 日 (火) 15 時～17 時 2. 場所 かながわ県民センター会議室 3. 技術課題 山崎氏から提供</p>